この人！ “コナラ”のお父さん　樹木医　大竹　弘三さん

ム：ムーアカデミーのコナラの健康状態はどう？

大竹：今年は芽吹きの状態をみると蘇生が順調なよう。（**コナラの声**：万博の時の覆いを取ってもらえて、光と大気に触れられて生き返った思いだよ。会期中はよくがんばった。環境の抑圧で体が痩せ細って、芽も弱々しくて、芽吹いても虫の攻撃に堪えたよ。枝も3、4本枯れ姿がやつれちゃって…みんなに早く痛みに気づいて欲しかったよ。でも、今は林床の手入れもよくしてもらって、体調が良くなってきたみたい。まだ、自然林の環境には遠いから改善して欲しいな。）20mのコナラを移植、愛知県館の中で自然樹保存展示をする計画は、誰もやったことのない事業だった。枯れても責任を問わないということでの依頼ならお断りしたが、施工主が絶対に根付かせる信念を持つと言ったので、その指導を引き受けた。

こうしてコナラの存在をたくさんの人に知ってもらえたのは良かったと思う。

ム：樹木医としての大竹さんはどういう方？

大竹：戦後、農業試験場の練習生として技術を習得した。県森林公園に長いこと勤めて緑化センターを最後に退職。その後樹木医の第1期の認定者になった。今は力の続く限り樹木医として木を大事にしてもらえる社会のお手伝いをしたいと思っとる。

万博は終わったけれどコナラの人生は新たなスタートを切ったばかり。自然の営みの中で土がつくられて、周りに生えてきた子どもたちが育つかどうかは、自然まかせ。同じ形の葉っぱはひとつもないんだ。樹木医の仕事は、自然の流れの中で木を診断することだ。木に見惚れていると手遅れになる。思いをかけて診ることが大切だ。

プロフィール　樹木医（認定番号 11 番！）
瀬戸市生まれ　日々、社会の樹木のために精力を尽くしている

センター職員の随想リレー
かたりべのひと言！

海上の森に来て早１年

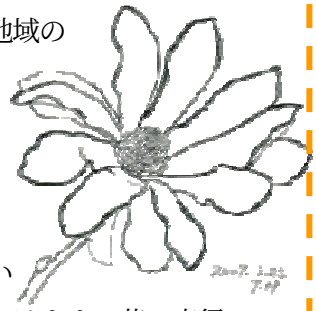
昨年の４月に設置された新たな施設「あいち海上の森センター」に初代職員として配属されて早くも１年が経過しました。

小学校時代の遊び場が雑木林や田んぼだったためか、自然が好きで、高校・大学の頃にはムツゴロウこと畑正憲さんの暮らしにあこがれていました。そのため、このセンターができると知ったときは、いつかは勤務したいと密かに狙っていましたが、まさか初代になるとは。

昨年は、一般県民へのオープンのための準備や管理職的な仕事が多く（歳をとっているため）、思ったより外を出歩けなかったのが、残念でした。それでも、センター２階のデッキでキツネを見たり、森の中でモグラの死骸を拾うなど、海上の森の自然の一端に触れることができました。今年はもっといろいろな自然との出会いを楽しみにしています。（S.H）

森のなかま

シデコブシ



東海地方の伊勢湾を囲う地域の丘陵地帯の低湿地に自生する落葉の小高木。海上の森にも自生しています。樹高は 2～4m。3 月下旬、葉に先立って、香りの良い白色または淡紅色の花をつけます。花の直径は 7～10cm。花びらやガクは合わせて 12～18 枚です。おしべとめしべは多数あり、らせん状についています。名前は、花の形がしめ縄などにつける四手（しで）（紙製の飾り）に似ていることに由来します。日当たりの良いところを好み、日陰に弱い（耐陰性が低い）ので、周囲の樹木が成長し日当たりが悪くなると、花が咲かなくなり、やがて枯れてしまうことが多いです。